

2016年 参議院選挙結果について

野 党 桜井充氏,自民に競り勝つ 統一候補 野党共闘で51万票獲得

2016年7月13日
宮城県労働組合総連合
議長 安藤 満

1 7月10日投開票の参議院選挙は、改選121議席のうち、政権与党が過半数を超える70議席（自民56・公明14）を確保し、改憲勢力が162議席を獲得した。与党に対し、戦争法廃止・立憲主義回復をかけた、たたかった4野党は44議席（民進32、共産6、社民1、生活1、無所属野党4）の確保にとどまった。

選挙結果は、改憲勢力が3分の2超の議席を確保し、改憲発議が可能となる重大な事態を迎えた。しかし、自らの選挙区候補を取り下げ、自公両党による異常なまでの反共攻撃を跳ね返し、野党共闘のカナメとなって活躍した日本共産党の前進は、私たち労働者に大きな勇気と確信を広げた。

2 一方、選挙区の投票結果は、全国32ある一人区選挙区すべてに野党統一候補の擁立が実現したが、そのうち11選挙区で、自民党候補に打ち勝つことができた。

宮城選挙区（1人区）の投票結果は、宮城県労連も支持表明した野党統一候補の桜井充氏が51万450票を獲得し、自民党の熊谷大氏に4万1千票の差で接戦を制し、当選を果たした。

今回の得票数は、2010年（桜井氏）、2013年（岡崎トミ子氏・次点）に実施された参議院選挙選挙区の民主党（当時）の得票数の2倍強にあたる。桜井氏の勝利は、違憲の戦争法を強行した安倍自公政権への怒りを正面から受け止め、実現した「野党協力」の成果である。そして、野党とともにたたかった市民の世論と運動の勝利である。

3 安倍首相は選挙後、「改憲」の姿勢を打ち出した。改憲に向けた「憲法審査会」を再開し、「野党も巻き込んだ議論」を開始すると表明している。安倍首相のねらいが自民党「改憲草案」の通り「9条ハズシ」にあることは明らかである。

7月11日付「河北」の社説は、「安倍首相は、選挙期間中、改憲について沈黙を貫いており、具体的判断材料を示していない。有権者から『白紙委任』を受けたのではないことを肝に銘じるべきだ」と警鐘を鳴らしている。

戦争法廃止の国民の運動から野党協力が生まれ、今回の参議院選挙での野党と市民による統一候補擁立の実現で、全国11選挙区の分厚い自民党の壁を打ち破ることができた。「野党共闘」の全国の先駆けとなった宮城をはじめ、東北の仲間のたたかいが、「野党協力」と「市民連合」の運動の今後の展望と希望をもたらしたことに確信と誇りをもとう。

アベノミクスによる国民・労働者の暮らしは、戦後最大の危機に直面している。残業代ゼロ法案、金銭解雇自由化法案の労働法制改悪が企てられている。

目前に迫っている野党共闘でたたかわれる東京都知事選挙での勝利と職場要求実現をめざし、職場を基礎に、組合員総参加で政治変革のたたかいを日常不断に推進されることを加盟組織と友誼組合の全組合員のみなさんに心から呼びかけるものである。